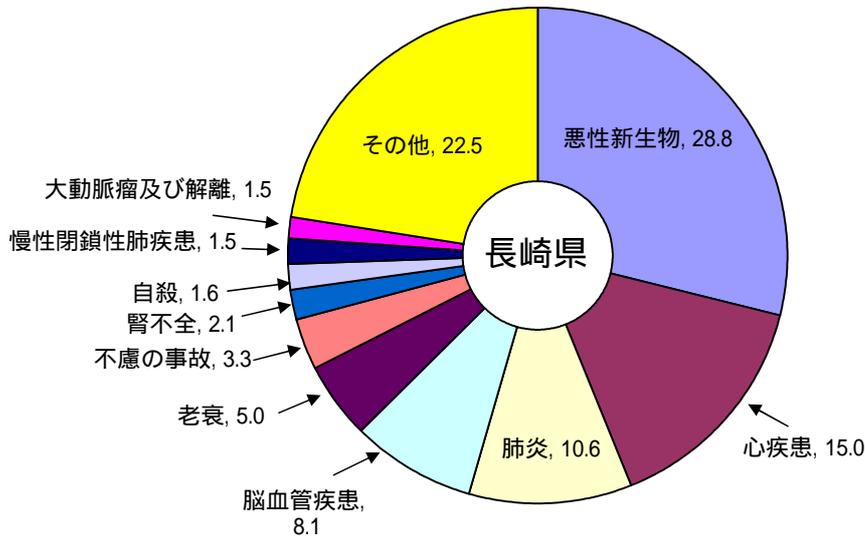
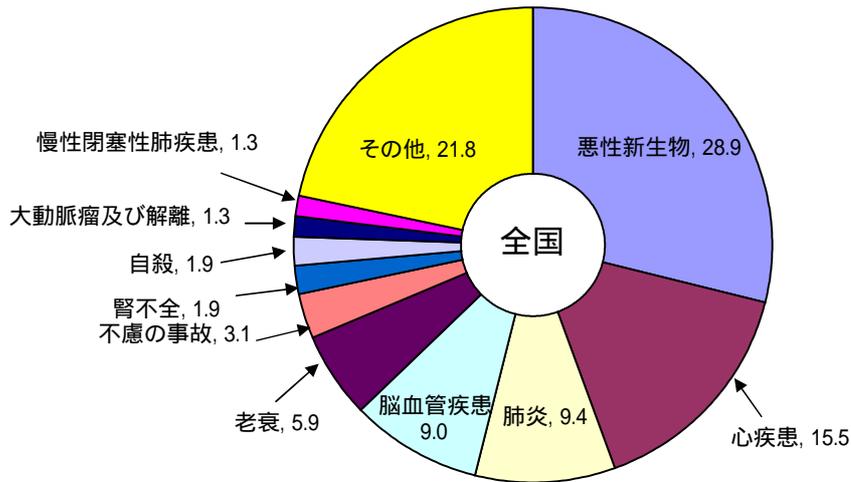


死因別死亡の概況



平成26年における本県の死亡数は、17,091人で、前年より134人減少したが、人口千当たりの死亡率では、12.4で、前年と同率であった。

なお、全国の死亡率10.1との比較では2.3ポイント高い(全国順位13位)。

死亡順位・死亡率(人口10万対)を主要死因別にみると、第1位 悪性新生物(ガン) 357.1、第2位 心疾患185.7、第3位 肺炎131.1、第4位 脳血管疾患99.9、第5位 老衰62.5であり、いわゆる三大死因の一つである脳血管疾患を肺炎が上回っている。

なお、本県の悪性新生物による死亡率は、全国の293.5に比べて63.6ポイントも高い(全国順位5位)。

悪性新生物の死亡率(人口10万対)を部位別にみると、男では、肺86、胃51.6 肝31.5の順に高く、女は、肺32.4、結腸26.1、胃25.5、の順となっている。

(県福祉保健課)